



日本共産党東京都議団ニュース  
**大山とも子** 日より  
―都民が主人公の東京へ―

2024年  
12月8日  
No. 345

発行

日本共産党東京都議会議員団  
控室 電話 (5320) 7270  
FAX (5388) 1790

連絡先

**大山とも子事務所**  
新宿区住吉町十一―二十五  
電話 (3357) 3818  
FAX (3353) 4912

◆都政に関する  
ご意見・ご要望を  
お寄せください!

# 外苑樹木伐採

## 都民の理解得られていない 都議会委 大山都議、知事に迫る



日本共産党の大山とも子都議は20日の都議会各会計決算特別委員会で、樹木の伐採に踏み出した明治神宮外苑再開発について、「都民や専門家の理解と共感は全く得られていない」と追及し、再開発計画を追認する環境影響評価（アセスメント）手続きの改正を小池百合子知事に迫りました。

大山都議は、小池知事が昨年の政治資金パーティーにおいて、再開発事業者の三井不動産にパーティー券を買ってもらったかどうかをたどりました。

小池知事は「法に基づき適切に対応し、政治資金収支報告書に掲載している」として明言せず。大山都議は「三井不動産は9月の住民説明会で『政党、政治家のパーティー券を適切に購

入」と事実を否定せず」と追及。「事業者との癒着を改めない限り、都民の声に正面から向き合うことはできない」と批判しました。

小池知事が「都民の理解と共感を得ることが重要」と述べたのに対し、大山都議は「現地に行き、伐採される樹木を悲痛な思いで見守る都民の声を聴いてほしい」と追及しました。



新国立競技場の「出陣学徒壮行の地」の碑の脇に移植された木が枯死して電信柱のようになっている。(2022年4月17日)



切り倒されて切り株になっている(2022年6月16日)

事業者の「見直し」案を都が追認したことについては「形だけ整えば、中身を問うつもりなし。100年の歴史を重ねた樹林や生態系・景観を、いともたやすくズタズタにした初めての都知事だ」と批判しました。

仮移植から本移植へと変更された、建国記念文庫の森から移植する樹木の移転先についても、図面が一部しか示されておらず、きちんと保全がされるかどうかについての議論の前提すら欠く状態です。  
(裏面に続く)

「写真は委員会で使用したパネル」

移植すればいいというような事業者の案についても、「樹木の移植というのは、そんなに簡単ではありません」と追及。樹木の生態に詳しい濱野周泰（ちかやす）氏は、新国立競技場周辺に移植した樹木について現地確認をして「樹木の生態的な特性を理解しているとは言いがたい。少なくとも移植木に関しては負のレガシーだ」と批判しています。中央大学研究開発機構の石川幹子氏は新国立競技場周

辺の樹木を調査した結果、「移植前の美しい樹形を生かした移植樹と判断したのは、新宿区の天然記念物のスタジイを含む3本ほどだった」「狭い空間に所狭しと詰め込まれており、森の生態系が再生されていない」と指摘しています。以上、2名の専門家の意見を紹介しました。

今も一年に何回かあっちこっちと遊びに行き楽しんでいきます」など、シルバーパスは、その事業目的に沿う大事な役割を果たしていることが窺えます。

2000年に現在の制度になってから25年が経過し、日本共産党都議団が繰り返し求めてきた制度の改善・拡充が、いよいよ切実な課題となつてい

ます。最大の問題は、費用負担です。所得135万円以下の方も10000円の負担があり、135万円を超えると、2万5100円に一気にねあがります。70歳以上人口は1.8倍、111万人増えているのに、2万5100円のパスを購入する人は、実数で1万2千人も減っています。

都内女性団体のアンケートには、次のような声も寄せられています。「生活のために働いているわずかな給料のために高額

知事は「改善・拡充を検討するならば、費用負担の軽減を検討することは、欠かせません。」

日本共産党都議団は全面無料化が望ましいと考えますが、所得制限をなくして一律10000円にすることなども選択肢です。来年度予算で踏み出すことを求めました。

東京都  
シルバーパス

## シルバーパスの改善求める



22年度と23年度で、少子社会

ました。

対策費が約1.4倍の大幅増となりました。018サポートな

都内で活動している女性団体が、シルバーパスについてアンケート調査しました。その中

ど子育てに希望が持てる内容も多く含まれており重要です。

も、「外出する機会が増えた」とか、「シルバーパスの

一方、高齢社会対策費はほぼ横ばいで、2023年度決算では

た時、早く70歳にならないかなと楽しみにしていました。シル

少子社会対策費の半分です。大

バーパスを手にした時は、やった！と思った。60歳まで勤めて

山都議は「高齢者福祉にもっと

いた職場の仲良し3人組でいろんなところに行き楽しみました。

光を当てて手厚くし、高齢者が

安心して生活できるようにして

いくことが必要です」と強調し

